

2. 「総合的な探究の時間」教科等研究会の取組について

(設置に向けて)

令和元年度、次年度から始まる「総合的な探究の時間」の本格実施に向けて、指導する教員の資質向上と、生徒の発表機会の充実など学校教育の振興を図る目的で、「総合的な探究の時間」教科等研究会（以下、「総合探究部会」と記す）の設置が県教育委員会から示され、本校の教育企画部に事務局を置き、当時の本校校長が部会長となって夏から立ち上げに向けての準備を始めた。

令和2年1月27日、田原本町でおこなわれた「総合的な探究の時間・奈良 TIME」学習研究発表会において、令和元年度奈良県高等学校教育研究会「総合的な探究の時間」部会の総会を実施し、会則案と次年度のおおまかな行事予定について承認を得た。

(令和2年度の取組)

昨年度末に大まかな計画を立てたものの、新型コロナウイルスの感染拡大にともなう4月から5月にかけての休校措置や緊急事態宣言の発令により、その計画は変更を余儀なくされ、授業が再開されてからも、秋以降の感染拡大により事業の持ち方を大きく変更することとなった。以下にその概要を記す。

① 本年度の会員登録

4月1日付けで県内すべての高等学校及び中等教育学校、特別支援学校に会員登録のお願いをし、43校、79名の先生方の会員登録をいただいた。

② 幹事会

当初は5月中に実施する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大による国の緊急事態宣言の発出に伴って延期となり、解除後の6月3日（水）に本校で実施した。総会については県内の他の教科等研究会においても一会場に集まっての実施はほとんどなかったため、本会においても書面表決の形をとることとした。

その他の事業については、2学期（11月末頃）に登美ヶ丘高等学校において学習指導研修会を、3学期（1月）に教育研究所にて学習研究発表会を実施することとした。

③ 総会

上述のとおり書面表決の形で行うこととし、7月20日（月）締め切りで賛否投票や意見の入力をオンライン（Google Form）で実施し、前年度の活動報告、本年度の役員並びに幹事（案）、本年度の事業計画について承認をいただいた。会長には本校の大西英人学校長が、事務局は昨年度に引き続き、本校におくこととなった。

④ 学習指導研究会（11月24日（火））

当初の予定では登美ヶ丘高等学校に教員が集合して、授業参観及び研究発表と研究協議を実施する予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点からオンラインでの開催となった。授業での発表の様子を事前にビデオ収録し、それを視聴してチャット機能を利用して質疑応答を行う形をとった。

授業は「倭Ⅱ」（総合的な探究の時間）で5つの班の発表を視聴した。授業は「奈良の課題とSDGs」という大きなテーマのもと、いくつかの領域に分かれて研究がおこなわれ、領域の代表の発表を視聴した。なお、年間計画の中では、今回の発表は「中間発表」の位置づけである。今回視聴した発表は、「自然・環境」「観光」「産業・交通」「健康・

福祉・政策」の領域からの発表であった。

それぞれの班の研究テーマは下記のとおり。

- ・奈良における鹿と人間の共存 [自然・環境]
- ・奈良の観光地の発展とSDGs [観光]
- ・大和川の水質 [自然・環境]
- ・コンパクトシティ化による奈良の産業の活性化 [産業・交通]
- ・セクシャルマイノリティの人も住みよい社会 [健康・福祉・政策]

発表後の研究発表と研究協議の中で、知識を得るいわゆる「調べ学習」から「探究活動」へと発展させていく上で、自分事としての視点を持ちながら課題を設定していくことの重要性和整理と分析の方法について提案と協議がなされた。「総合的な探究の時間」は教科横断的な内容であり、教科や科目の枠を越えた協働の重要性を認識するとともに、教員も生徒とともに学んでいく態度の必要性を感じた研究会となった。

⑤ 学習研究発表会（1月18日（月））

当初の予定では、発表校の生徒が田原本町の教育研究所に集まって、昨年度同様ポスターセッションの形で研究発表をする予定であったが、新型コロナウイルスの感染が拡大してきたため、オンラインによる開催となった。発表校の生徒は事前に自らの研究発表をビデオに収録し、それを当日に参加者が視聴し、質問等をチャット機能を利用しておこなった。

発表を行った学校は、青翔、法隆寺国際、聖心学園、そして本校の4校。順番に発表のビデオを視聴し、発表後、それぞれの学校にいる生徒達がGoogle Meetのビデオ通話機能を使う形で交流をおこなった。生徒同士がビデオ機能を通して対話をする部分もあって、参加した生徒達にとってはそれなりに意義があったようだ。



当日の研究発表は、指導助言者である金沢工業大学の田中孝治先生にもオンラインで視聴いただき、質問やアドバイスをいただいた。また先生には、探究学習の進め方についてのご講義もいただいた。

本来はそれぞれの学校で研究した生徒達が同じ場所に来て発表し、対面での生徒同士での意見交換や各校の先生方からの指導助言をいただくことが大きな刺激となり、それぞれの研究がブラッシュアップされていく。オンラインということで、質疑応答にタイムラグがあったが、参加された先生方からも多くの質問や意見が出され、それなりの成果はあったようだ。今回の体験をこれからの教育活動にどう活かしていくか、つまりオンラインという新しい形の学習環境をいかに効果的に普段の教育活動の中に活かしていくべきなのかを考える機会となった発表会であった。ただ当日はネット回線の問題か発表動画が途中で停止したり、オンラインの画面がフリーズしたりというトラブルが何度か起きたので、あらためてインフラ面での整備が急務であると感じた。